関西版
支社
1丁目15－10(森田ビル)
電話・06(6445)6935
FAX・06(6445)6938

キンキスチール

第2工場を新設

シュネル社製 全自動鉄筋加工機導入

加工度高め収益力向上目指す

富士鋼材グループで、鉄筋など鋼材販売・加工業のキンキスチール（本社・姫路市大津区、社長・近藤充氏）は、本社第2工場を新設し、シュネル社製の全自動鉄筋加工機を導入した。鉄筋加工業界における人手不足から加工ニーズが高まっており、これに対応していくとともに、加工度を高めることで収益力向上を目指していく。

本社第1工場が手狭となっており、隣接地を取得できたことで第2工場の建設を決めた。すでに建屋は完成し、設備も据え付けられており、まもなく本稼働する予定。鉄筋の切断から曲げ加工までを全自動化することで、鉄筋加工における現場作業の負担軽減につなげ、鉄筋加工業と協業できる体制づくりを目指していく。

同社は鉄筋のほか、一般形鋼・鋼板類・平鋼・鋼管などの加工・販売を手掛けており、本社第1・第2工場のほか、鉄筋を在庫する西蒲田倉庫（姫路市広畑区）がある。社員数は約30人。鋼材在庫量は鉄筋を中心に800～900トンであり、月間販売量は鉄筋の直送販売分を含め2200～2300トン。2021年10月には富士鋼材グループとなり、すでに仕入れ面などでシナジー効果を発揮しており、今後は新工場稼働に伴いさらなるシナジー効果を模索していく。

新設した第2工場にはシュネル社製の鉄筋加工機のほか、第1工場からビームワーカーおよび鉄筋の断機を移設した。このほか、プラズマ溶断機1基、バンドソー4基、長穴・ネジ切り加工などができるパネル穴あけ専用機も備えており、小ロット・多品種販売だけでなく、さらにはそれらの加工についても強みとしている。第1工場の屋根には太陽光発電パネルを設置しており、第2工場も屋根にパネルを設置できるよう設計した。

第1工場からの設備移転により、同工場では新たな加工設備を導入できる余地が生まれており、今後は付加価値向上などを目指して加工設備の導入を検討していく方針だ。

写真上から新設した第2工場、シュネル社製の全自動鉄筋加工機

OSAパイプ部会の流通動態

1月、販売減で在庫微増

大阪鉄鋼流通協会（OSA）パイプ部会は1月の流通動態調査をまとめた。会体では仕入れは前月比13・6%減の2桁減となったが、販売が同14・7%減少したため、月末在庫は同1・5%増の微増。2カ月連続で月末在庫が増えた。

構造用は仕入れが12・2%減の2桁減となったが、販売も同16・8%減少したため、月末在庫は同1・8%増の微増。昨年8月以来、5カ月ぶりに月末在庫が増えた。品種別の月末在庫は、販売が25%減ったSTKは同7・7%増加したが、角形鋼管が同0・5%増、STKMが0・2%減と大きな変動はなかった。

配管用は仕入れが同20・1%減と2割減ったが、販売が同2・9%減で仕入れとほぼ同水準となったため、月末在庫は同0・4%減のほぼ横ばいとなった。品種別の月末在庫は白ガス管が同1・9%減の微減、STPG－Sが同2・1%増の微増、STPG－Eが同0・5%減とほぼ横ばい。詳細は別表の通り。

1月パイプ流通動態調査

大阪鉄鋼流通協会パイプ部会

（単位：トン、カッコ内は前月）

	仕入量	販売量	当月末在庫量
配管用			
SGP（黒ガス管）	289（316）	292（361）	645（648）
SGP（白ガス管）	187（247）	196（182）	458（467）
STPG－S（継目無）	162（184）	141（152）	533（522）
STPG－E（電気抵抗溶接）	332（455）	340（313）	882（900）
配管用合計	960（1,202）	969（998）	2,528（2,537）
構造用			
STK	1,605（1,954）	1,447（1,949）	3,406（3,218）
STKM（継目無）	816（816）	834（853）	5,729（5,748）
STKR（角形鋼管）	2,339（2,776）	2,300（2,703）	6,108（6,078）
構造用合計	4,760（5,526）	4,581（5,505）	15,313（15,044）
総合計	5,810（6,728）	5,550（6,503）	17,841（17,581）

OSA薄板部会の市場動向

荷動き活気乏しい

市況はジリ安展開続く

大阪鉄鋼流通協会（OSA）薄板部会（部会長・井上吉行大裕鋼業社長）はこのほど例会を開催し、直近の市況・需要動向についてまとめた。前回発表（昨年12月開催）と比べた。活気薄な荷動きのため市況はジリ安の展開が続く。

需要分野別動向（好調、やや好調、普通、やや低調、低調の5段階評価）は次の通り。

白動車は前回同様「やや低調」。半導体の使用が少ない軽自動車などから生産量は回復している。機同生産は前年比で2月は荷動きが若干上向いた分野もあったが、全分野変わらない環境となった。ただ1月比で2月は荷動きが若干上向いた分野もあった。

「普通」を維持している。新築着工床面積は前年比で増加しているがコロナ禍以前には回復していない。

非住宅建材も「やや低調」と変わらず。夏場から回復しているが前年割れ。建築コストの増加で1年以上先送りとなっている案件もある。

鋼製家具は「低調」なままで、全分野で最低のマーケット環境。例年、1～3月は需要期となっているが、オフィス需要減で動きが悪化している。

住宅建材は前回同様「低調」。家電も「低調」。高齢者が使いやすい小型高機能製品は好調だが、海外生産シフトの動きがみられ相板も一段弱含む。

人手不足が不安視されている。

産業機械は「好調」を維持している。EVや航空機関連など先端分野が内外需ともに堅調に推移している。

建設機械も「好調」が続く。部品不足への懸念もあるがメーカー生産はほぼ計画通りとなっている。

状況。今後、コロナ禍で
延期・中止なった作小
のサイクルで回ってお 造・設計を持つ。そのた
の、カ月ぶり前のことは設備においてもS

OSAマーケット委員会

2月相場、異形棒上伸

大阪鉄鋼流通協会（OSA）マーケット委員会は2月の発表相場をまとめた。

2月は例会を開催せず、相場発表のみとなった。年初のメーカートラブルによる需要増イト化で、異形棒は7千～8千円上昇。相場より上伸。品種は前月から横ばいとなった。

詳細は別表の通り。

大阪鉄流協会相場

（2月20日）
▲は値上がり、▼は値下がり
（単位：千円）

丸棒	
9φ（SR235）	162
13φ（SR235）	136
19φ（SS400）	135
19φ（構造用・電炉）	146
50φ（構造用・電炉）	145
異形棒鋼	
SD295 16φ	▲115
16φ（直売）	▲105
角鋼 16～25□	157
平鋼 3×25	218
6×50	135
等辺山形鋼 3×30	133
6×65	125
12×150	133
不等辺山形鋼 9×90×150	148
溝形鋼 5×50×100	128
8×90×200	125
9×90×250	126
I形鋼 5.5×75×125	172
7.5×125×250	148
H形鋼 5.5/8×200×100	125
11/17×600×200	132
軽量H形鋼 3.2/4.5×200×100	200
軽量形鋼C形（カラー）2.3/100×50	175
コラム 12×300×300	185
デッキプレート 1.2（カラー）×614×50	240
電気亜鉛めっき鋼板 熱延下地 2.3（4×8）	150
冷延下地 1.0（4×8）	160
冷延薄板 1.0（3×6）	135
熱延薄板 1.6（4×8）	139
中厚板 3.2（4×8）	135
19（5×10）	145
縞鋼板 4.5（4×8）	160
配管用鋼管（SPG） 50A	245
150A	250
構造用鋼管（STK） 48.6×2.3	250
216.3×5.8	230
角形鋼管	